

平成 20 年度

# 事業報告書

平成 20 年 4 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日まで

学校法人 **東京農業大学**

- 東京農業大学
- 東京情報大学
- 東京農業大学短期大学部
- 東京農業大学第一高等学校
- 東京農業大学第二高等学校
- 東京農業大学第三高等学校
- 東京農業大学第一高等学校中等部
- 東京農業大学成人学校

目次

**I 学校法人東京農業大学の使命**

学校法人東京農業大学理事長／松田藤四郎	1
---------------------	---

**II 学校法人の概要**

1 設置する学校・学部・学科等	3
2 設置する学校・学部・学科等の入学定員、学生生徒数の状況	5
3 設置する学校・学部・学科等の学年別学生生徒数の状況	7
4 役員・教職員の概要	
(1) 役員・評議員の状況	9
(2) 職員の状況	10

**III 事業の概要**

1 教育研究改革の推進	12
2 教育研究施設設備整備事業	20
3 参考資料	
(1) 平成21年度入学試験（大学）データ（一般入試・ 大学入試センター利用入試）	21
(2) 平成21年3月卒業生進路状況（大学別学部別）	22

**IV 財務の概要**

1 資金収支計算書	23
2 消費収支計算書	24
3 貸借対照表	26
4 資金収支計算書・消費収支計算書・貸借対照表の経年比較	
(1) 資金収支計算書の経年比較	27
(2) 消費収支計算書の経年比較	28
(3) 貸借対照表の経年比較	29

## I 学校法人東京農業大学の使命



学校法人  
東京農業大学理事長  
松田 藤四郎

学校法人東京農業大学は8つの学校を経営しています。その中の大黒柱である東京農業大学は、明治政府で重用された榎本武揚を生みの親とし、近代農学の祖横井時敬を育ての親とする、我が国で最も古く最大規模を誇る農学系の私立大学として平成20年度で創立117周年を迎えました。

青少年時代に学問に熱中した榎本武揚は、後年になっても学ぶことの尊さを忘れず「学後知不足（学びてのち足らざるを知る）」ということばを残しました。また、横井時敬の教育研究への基本姿勢は、「稲のことは稲にきけ」「農業のことは農民にきけ」ということばで表される「実学主義」で、本法人の各学校の教育理念となっています。

農学系の総合大学である東京農業大学は、「実学主義」の教育理念に基づいて、自然や生命の本質やメカニズムを理解し、社会のニーズに応える形で現実の問題を実践的に解決する研究教育を行い、「人物を畑に還す」という建学の精神に基づいて優れた人材を社会に輩出することを使命としています。

「農」は、人間生活に不可欠な衣食住の全てであり、農民文学など広汎な芸術文化を含む日本の文化そのものともいえる極めて総合的な概念を網羅しています。東京農業大学は、20年以上も前から食料、環境、健康、バイオマスエネルギーのキーワードを掲げ改革を実施してきました。従来の農学に生命科学、環境科学、情報科学を取り入れ、学部の大改組を行い、国際的、地球的視点も加え、幅広い教育研究の体制づくりを進めています。

教育研究は多岐にわたり、世界の食料問題、環境問題について多くの学科が取り組んでいます。WTOの下での日本の農業について、いま問題となっている食の安心、安全性の問題、化学肥料、化学合成農薬多投型の農業から環境にやさしい農業の研究、バイオテクノロジーへの取り組み、ITを駆使したロボット農業の開発などの研究がなされています。

21世紀は20世紀の工業化社会の負の遺産を解消していかなければなりません。膨大な産業廃棄物、一般廃棄物、大気有害物に対し、リデュース、リユース、リサイクルなどを進め「循環型社会」をつくりあげる必要に迫られています。そのための技術開発及び都市と農村を含めた広域的静脈産業の発展並びにそのネットワークづくりが重要になっています。また、「脱化石エネルギー社会」の設計も不可欠で東京農業大学ではいまバイオマスの研究に力を注いでいます。

本法人は、東京農業大学を中核として21世紀社会の抱える多くの課題に実践的、具体的に取り組むを進め、社会ニーズの変化に的確に対応した改革と貢献に努めています。

## II 学校法人の概要



創設者 榎本 武揚



初代学長 横井 時敬

学校法人東京農業大学が設置する学校は平成20年度現在、大学、短期大学部、高等学校、中等部及び各種学校を合わせて8校となりました。これら設置学校の学生生徒総数は、20,722名（平成20年5月1日現在）です。

学校法人東京農業大学の中核である東京農業大学は、明治24年3月6日、徳川育英会を母体とした私立育英農科として東京市麹町区飯田河岸第4号の3（現在のJR飯田橋駅構内）に創立されました。創設者は、子爵榎本武揚です。その後、大正14年5月18日、旧大学令による（財）東京農業大学となりました。初代学長は、近代農学の祖、横井時敬博士です。

現在、農学系の大学は、国公立大学合計52大学ですが、戦前、農学部があり卒業生を輩出した大学は、北大、東大、京大、九大の4帝国大学と私立の東京農業大学の5大学だけでした。

このように東京農業大学は、私学の農学系大学では戦前唯一の大学で、我が国で最も歴史が古く、学生数、教員数で我が国最大規模の農学系総合大学に発展し平成20年度で創立117年目を迎えました。

東京農業大学の建学の理念は「人物を畑に還す」であり、教育の理念は「実学主義」です。実学主義とは、社会の現実を直視し、考証的な研究を基礎として諸々の改革を提唱する実用的で実際的な質問のあり方をいいます。横井時敬博士はこのことを「稲のことは稲にきけ、農業のことは農民にきけ」の言葉で表しました。これらの理念は、学校法人東京農業大学傘下の各学校における教育研究の支柱となっています。

### 創設者 榎本武揚（えのもと たけあき・1836-1908）

幕臣榎本円兵衛武規の次男として江戸御徒町に生まれる。長崎海軍伝習所を卒業後幕府第一号留学生としてオランダに留学。幕府海軍副総裁。函館五稜郭で明治新政府軍と戦い敗れたが、その才能が惜しまれ明治政府で通信大臣（初代）、文部大臣、外務大臣、農商務大臣を歴任。ロシア特命全権公使（1875年千島・樺太交換条約調印）、地学協会副会長、日本家禽協会会長、日本気象学会会頭など政界、官界、学会に貢献。子爵の位を授かる。育英農科（現東京農業大学）を創設。東京農業大学の生みの親。享年73歳。

### 初代学長 横井時敬（よこい ときよし・1860-1927）

肥後国熊本城下に藩士久右衛門兵時教の四男として生まれる。東京駒場農学校農学本科を卒業、東京帝国大学農科大学教授（農学博士）。種籾の塩水選種法（高塩分濃度塩水に種籾を浮かべ種籾の良悪を判断できる）を考案。1895年榎本武揚の招聘で東京農学校（現東京農業大学）評議員就任。1907年大日本農会附属私立東京高等農学校校長、1911年東京農業大学初代学長に就任。農業の担い手、農村のリーダー教育を目的に質実剛健、独立不羈、自彊不息の気風高揚に努め、実学を重視した東京農業大学の育ての親。享年67歳。正三位勲一等瑞宝章を授かる。

## 1 設置する学校・学部・学科等

＜学校等の名称＞	＜開設年度等＞	
東京農業大学		
大学院農学研究科		
農学専攻	前期課程 昭和 28 年	後期課程 昭和 37 年
畜産学専攻	前期課程 昭和 61 年	後期課程 平成 2 年
バイオサイエンス専攻	前期課程 平成 14 年	後期課程 平成 16 年
農芸化学専攻	前期課程 昭和 32 年	後期課程 昭和 34 年
醸造学専攻	前期課程 平成 2 年	後期課程 平成 14 年
食品栄養学専攻	前期課程 昭和 61 年	後期課程 平成 14 年
林学専攻	前期課程 昭和 61 年	後期課程 平成 2 年
農業工学専攻	前期課程 平成 2 年	後期課程 平成 14 年
造園学専攻	前期課程 平成 2 年	後期課程 平成 14 年
国際農業開発学専攻	前期課程 平成 2 年	後期課程 平成 14 年
農業経済学専攻	前期課程 昭和 28 年	後期課程 昭和 37 年
国際バイオビジネス学専攻	前期課程 平成 14 年	後期課程 平成 16 年
環境共生学専攻	後期課程 平成 2 年	
生物産業学研究科		
生物産業学専攻	前期課程 平成 5 年	後期課程 平成 7 年
農学部		
農学科	昭和 24 年	
畜産学科	昭和 24 年	
バイオセラピー学科	平成 18 年	
応用生物科学部		
バイオサイエンス学科	平成 10 年	
生物応用化学科	平成 10 年	
醸造科学科	平成 10 年	
栄養科学科		
食品栄養学専攻	平成 10 年	
管理栄養士専攻	平成 10 年	
地域環境科学部		
森林総合科学科	平成 10 年	
生産環境工学科	平成 10 年	
造園科学科	平成 10 年	
国際食料情報学部		
国際農業開発学科	平成 10 年	
食料環境経済学科	平成 10 年	
国際バイオビジネス学科	平成 10 年	
生物産業学部		
生物生産学科	平成元年	
アクアバイオ学科	平成 18 年	
食品科学科	平成元年	
産業経営学科	平成元年	

< 学校等の名称 >	< 開設年度等 >	
東京情報大学 大学院総合情報学研究科 総合情報学専攻 総合情報学部 経営学科 情報学科 情報システム学科 環境情報学科 情報ビジネス学科 情報文化学科	前期課程 平成 4 年	後期課程 平成 11 年
	昭和 63 年 (*)	
	昭和 63 年 (*)	
	平成 13 年	
	平成 13 年	
	平成 13 年	
	平成 8 年	
東京農業大学短期大学部 生物生産技術学科 環境緑地学科 醸造学科 栄養学科	平成 4 年	
	平成 4 年	
	昭和 25 年	
	昭和 31 年	
東京農業大学第一高等学校 (全日制の課程) 普通科	昭和 25 年	
東京農業大学第二高等学校 (全日制の課程) 普通科	昭和 37 年	
東京農業大学第三高等学校 (全日制の課程) 普通科	昭和 60 年	
東京農業大学第一高等学校中等部	平成 17 年	
東京農業大学成人学校	昭和 50 年	

\* 平成 13 年度の学部改組に伴う募集停止学科

(改組前) 経営情報学部 → (改組後) 総合情報学部

2 設置する学校・学部・学科等の入学定員、学生生徒数の状況

(平成20年5月1日現在)  
(単位:人)

学校名等			入学 定員 (1)	入学 者 (2)	(2) ÷ (1)	編入学 定員 (3)	編入学 者 (4)	(4) ÷ (3)	取容 定員 (5)	現員 (6)	(6) ÷ (5)
大学院 農学研究科	博士前期課程	農学専攻	14	15	1.07				28	32	1.14
		畜産学専攻	12	11	0.92				24	24	1.00
		バイオサイエンス専攻	30	35	1.17				60	74	1.23
		農芸化学専攻	25	32	1.28				50	59	1.18
		醸造学専攻	12	19	1.58				24	32	1.33
		食品栄養学専攻	12	7	0.58				24	19	0.79
		林学専攻	12	8	0.67				24	22	0.92
		農業工学専攻	8	7	0.88				16	17	1.06
		造園学専攻	12	8	0.67				24	24	1.00
		国際農業開発学専攻	12	12	1.00				24	23	0.96
		農業経済学専攻	10	10	1.00				20	20	1.00
	国際バイオビジネス学専攻	12	13	1.08				24	26	1.08	
	小計	171	177	1.04				342	372	1.09	
	博士後期課程	農学専攻	5						15	6	0.40
		畜産学専攻	4	1	0.25				12	4	0.33
		バイオサイエンス専攻	6	5	0.83				18	13	0.72
		農芸化学専攻	5	1	0.20				15	11	0.73
		醸造学専攻	2						6	2	0.33
		食品栄養学専攻	2	1	0.50				6	5	0.83
		林学専攻	4	2	0.50				12	3	0.25
農業工学専攻		2	2	1.00				6	5	0.83	
造園学専攻		3	1	0.33				9	4	0.44	
国際農業開発学専攻		2	4	2.00				6	8	1.33	
農業経済学専攻		5	3	0.60				15	17	1.13	
国際バイオビジネス学専攻	5	2	0.40				15	14	0.93		
環境共生学専攻	5	7	1.40				15	26	1.73		
小計	50	29	0.58				150	118	0.79		
計	221	206	0.93				492	490	1.00		
大学院 生物産業学 研究科	博士前期課程	生物産業学専攻	15	14	0.93				30	25	0.83
博士後期課程	生物産業学専攻	8	3	0.38				24	13	0.54	
計	23	17	0.74				54	38	0.70		
大学院計			244	223	0.91				546	528	0.97
農学部	農学科	220	257	1.17	16	21	1.31	932	1,082	1.16	
	畜産学科	180	217	1.21	10	7	0.70	760	900	1.18	
	バイオセラピー学科	140	167	1.19	10	12	1.20	430	508	1.18	
	小計	540	641	1.19	36	40	1.11	2,122	2,490	1.17	
応用生物科学部	バイオサイエンス学科	140	161	1.15	10	9	0.90	580	681	1.17	
	生物応用化学科	140	176	1.26	10	11	1.10	580	703	1.21	
	醸造科学科	140	161	1.15	20	21	1.05	600	753	1.26	
	栄養科学科(食品栄養学専攻)	80	92	1.15	8	7	0.88	336	374	1.11	
	栄養科学科(管理栄養士専攻)	80	78	0.98	4	4	1.00	328	332	1.01	
小計	580	668	1.15	52	52	1.00	2,424	2,843	1.17		
地域環境科学部	森林総合科学科	140	161	1.15	6	8	1.33	572	708	1.24	
	生産環境工学科	140	160	1.14	3	1	0.33	566	674	1.19	
	造園科学科	140	179	1.28	20	25	1.25	600	753	1.26	
	小計	420	500	1.19	29	34	1.17	1,738	2,135	1.23	
国際食料情報学部	国際農業開発学科	140	173	1.24	10	20	2.00	580	695	1.20	
	食料環境経済学科(昼間主コース)								13		
	食料環境経済学科(夜間主コース)								3		
	食料環境経済学科	220	277	1.26	10	19	1.90	900	1,133	1.26	
	生物企業情報学科(昼間主コース)								6		
	生物企業情報学科(夜間主コース)								5		
	国際バイオビジネス学科	170	212	1.25	5	8	1.60	690	877	1.27	
小計	530	662	1.25	25	47	1.88	2,170	2,732	1.26		
生物産業学部	生物生産学科	100	129	1.29	10	5	0.50	420	489	1.16	
	アควアバイオ学科	80	79	0.99		2		240	265	1.10	
	食品科学科	80	71	0.89	12	16	1.33	344	389	1.13	
	産業経営学科	100	72	0.72	5	4	0.80	500	463	0.93	
	小計	360	351	0.98	27	27	1.00	1,504	1,606	1.07	
学部計			2,430	2,822	1.16	169	200	1.18	9,958	11,806	1.19
大学計			2,674	3,045	1.14	169	200	1.18	10,504	12,334	1.17

(平成20年5月1日現在)  
(単位:人)

学校名等			入学 定員 (1)	入学 者 (2)	(2) ÷ (1)	編入学 定員 (3)	編入 学者 (4)	(4) ÷ (3)	収容 定員 (5)	現員 (6)	(6) ÷ (5)	
東京 情報 大学	大学院 経営情報学 研究科	博士前期課程 経営情報学専攻										
		博士後期課程 経営情報学専攻								1		
			計								1	
	大学院 総合情報学 研究科	博士前期課程 総合情報学専攻	15	17	1.13					30	30	1.00
		博士後期課程 総合情報学専攻	3	1	0.33					9	7	0.78
			計	18	18	1.00				39	37	0.95
			大学院計	18	18	1.00				39	38	0.97
	総合情報学部	情報システム学科		135	153	1.13	7	3	0.43	554	606	1.09
		環境情報学科		120	104	0.87	9	3	0.33	498	515	1.03
		情報ビジネス学科		114	102	0.89	11	8	0.73	478	485	1.01
		経営情報学科									17	
		情報文化学科		135	127	0.94		1		540	596	1.10
			小計	504	486	0.96	27	15	0.56	2,070	2,219	1.07
			学部計	504	486	0.96	27	15	0.56	2,070	2,219	1.07
			大学計	522	504	0.97	27	15	0.56	2,109	2,257	1.07
東京農業大学短期大学部	生物生産技術学科		130	150	1.15				260	313	1.20	
	環境緑地学科		70	93	1.33				140	183	1.31	
	醸造学科		80	109	1.36				160	223	1.39	
	栄養学科		150	163	1.09				300	318	1.06	
			計	430	515	1.20				860	1,037	1.21
東京農業大学第一高等学校	(全日制の課程)普通科		400	395	0.99				1,200	1,208	1.01	
東京農業大学第二高等学校	(全日制の課程)普通科		560	623	1.11				1,720	1,865	1.08	
東京農業大学第三高等学校	(全日制の課程)普通科		400	433	1.08				1,200	1,332	1.11	
東京農業大学第一高等学校中等部			100	106	1.06				300	351	1.17	
東京農業大学成人学校	園芸造園本科		80	96	1.20				80	96	1.20	
	園芸造園専科		150	126	0.84				150	126	0.84	
	健康増進Aコース		60	91	1.52				60	91	1.52	
	健康増進Bコース		40	25	0.63				40	25	0.63	
			計	330	338	1.02				330	338	1.02
学生生徒数 合計			5,416	5,959	1.10	196	215	1.10	18,223	20,722	1.14	



### 3 設置する学校・学部・学科等の学年別学生生徒数の状況

(平成20年5月1日現在)  
(単位:人)

学校名等		博士前期課程			博士後期課程			計	
		1年	2年	小計	1年	2年	3年		小計
大学院 農学研究科	農学専攻	15	17	32		3	3	6	38
	畜産学専攻	11	13	24	1	1	2	4	28
	バイオサイエンス専攻	35	39	74	5	1	7	13	87
	農芸化学専攻	32	27	59	1	5	5	11	70
	醸造学専攻	19	13	32		1	1	2	34
	食品栄養学専攻	7	12	19	1		4	5	24
	林学専攻	8	14	22	2	1		3	25
	農業工学専攻	7	10	17	2	1	2	5	22
	造園学専攻	8	16	24	1	1	2	4	28
	国際農業開発学専攻	12	11	23	4	1	3	8	31
	農業経済学専攻	10	10	20	3	8	6	17	37
	国際バイオビジネス学専攻	13	13	26	2	8	4	14	40
	環境共生学専攻				7	3	16	26	26
	小計	177	195	372	29	34	55	118	490
	大学院生物 産業学研究科	生物産業学専攻	14	11	25	3	6	4	13
小計	14	11	25	3	6	4	13	38	
計	191	206	397	32	40	59	131	528	
学校名等		1年	2年	3年	4年	計			
東京農業大学	農学部	260	264	267	291	1,082			
	畜産学科	219	228	223	230	900			
	バイオセラピー学科	167	167	174		508			
	小計	646	659	664	521	2,490			
	応用生物 科学部	162	179	175	165	681			
	生物応用化学科	180	176	170	177	703			
	醸造科学科	162	197	194	200	753			
	栄養科学科(食品栄養学専攻)	92	96	95	91	374			
	栄養科学科(管理栄養士専攻)	78	83	84	87	332			
	小計	674	731	718	720	2,843			
	地域環境 科学部	164	176	177	191	708			
	生産環境工学科	164	167	160	183	674			
	造園科学科	183	167	205	198	753			
	小計	511	510	542	572	2,135			
	国際食料 情報学部	国際農業開発学科	174	163	169	189	695		
	食料環境経済学科(昼間主コース)				13	13			
	食料環境経済学科(夜間主コース)				3	3			
	食料環境経済学科	277	290	296	270	1,133			
	生物企業情報学科(昼間主コース)				6	6			
	生物企業情報学科(夜間主コース)				5	5			
	国際バイオビジネス学科	216	224	215	222	877			
小計	667	677	680	708	2,732				
生物産業 学部	生物生産学科	130	114	116	129	489			
アクアバイオ学科	79	98	88		265				
食品科学科	71	92	107	119	389				
産業経営学科	73	99	131	160	463				
小計	353	403	442	408	1,606				
計	2,851	2,980	3,046	2,929	11,806				

(平成20年5月1日現在)  
(単位:人)

学校名等		博士前期課程			博士後期課程				計
		1年	2年	小計	1年	2年	3年	小計	
東京情報大学	大学院経営情報学研究科 経営情報学専攻						1	1	1
	大学院総合情報学研究科 総合情報学専攻	17	13	30	1	1	5	7	37
	計	17	13	30	1	1	6	8	38
	学校名等		1年	2年	3年	4年	計		
	総合情報学部	情報システム学科	154	141	162	149	606		
環境情報学科		105	143	125	142	515			
情報ビジネス学科		102	113	136	134	485			
経営情報学科			2	4	11	17			
情報文化学科		127	147	170	152	596			
計		488	546	597	588	2,219			

学校名等		1年	2年	計
東京農業大学 短期大学部	生物生産技術学科	154	159	313
	環境緑地学科	96	87	183
	醸造学科	112	111	223
	栄養学科	165	153	318
	計	527	510	1,037

学校名等		1年	2年	3年	計
東京農業大学第一高等学校 (全日制の課程) 普通科		395	396	417	1,208
東京農業大学第二高等学校 (全日制の課程) 普通科		623	659	583	1,865
東京農業大学第三高等学校 (全日制の課程) 普通科		433	472	427	1,332
計		1,451	1,527	1,427	4,405

学校名等		1年	2年	3年	計
東京農業大学第一高等学校中等部		106	114	131	351
計		106	114	131	351

学校名等		1年	計
東京農業大学 成人学校	園芸造園本科	96	96
	園芸造園専科	126	126
	健康増進Aコース	91	91
	健康増進Bコース	25	25
	計	338	338

学生生徒数 合計		20,722

## 4 役員・教職員の概要

### (1) 役員・評議員の状況

(平成20年5月1日現在)

役員 (18名)			評議員 (52名)				
理事長	松田藤四郎		青木俊昭	木見井藤	俊雄康	昭二雄	高橋久光
常務理事	佐藤澤貫	勝彦	浅荒伊伊	見井藤	康	二雄	博一美
理事	大新牛久保	寿利	伊伊牛久保	藤藤保	竹明	薰雄	美導
〃	鈴木永河	邦治	大岡尾小	澤場島崎	貫	邦寿	豊和
〃	原尾小戸	夫宏	尾小鹿加	島崎澤熊	秀義	脩治	雄慶
〃	三鈴武大	慶太郎	菊黒河小	地田野林	寅安	人男	聡夫
〃	大金永	人男	佐々木藤	田野林	日出男	正男	利昌
〃		美清	七柴清	木藤条	昭	憲昭	太郎
〃		勲夫	佐七柴	藤条	友常	宏良	一三
〃		一郎	七柴	条	勝	昭彦	惘二
〃		悟一	柴	崎水	昭昂	明夫	太郎
〃			清	木野	昌克	夫一	徳幸
〃			鈴高	野山	松	治己	清成
〃			高袖	橋		夫夫	壽輝
〃			高			夫夫	夫

(2) 職員の状況

(平成20年5月1日現在)  
(単位:人)

職員数	東京農業大学			
	専任職員	特任教授・嘱託職員等	非常勤講師	計
	男	664	110	498
女	162	51	176	389
計	826	161	674	1,661

	理事長室・本部	東京農業大学											短期農業大学	東京情報大学	第一京高農等学校	第二京高農等学校	第三京高農等学校	第一京高農等学校中等部	成人農業大学	合計			
		農学部	応用生物科学部	地域環境科学部	国際食料情報学部	生物産業学部	教職・学術情報課程	七世田谷学生サービスセンター	七厚木学生サービスセンター	オホービスセンター学生サービス	(左記所屬者除く)	計											
専任	学長	*1												1								1	
	副学長	*1																					
	教授	18	34	25	28	23	2						130	9	30						169		
	准教授	20	13	14	18	12	5						82	10	17						109		
	講師	13	14	15	7	17							66	9	8						83		
	助教授	4	3	3	2	3							15	2	2						19		
	校長	3	11	4	2	4							24	2							26		
	副校長		1			1							2								2		
	教頭																		*1	*1	*1	1	
	教諭																			1	*1	1	
	成人学校准教授																				1	1	
	小計	54	72	58	55	56	7						302	30	56	44	64	55	15	1	567		
		5	10	3	6	5	1						30	6	6	11	14	7	6		80		
11級	1							1				1	2		1						4		
10級	4							2			1	3									7		
9級	6							6	2	2	6	16		4	1	1	2				30		
8級	3	1			1			6	3	3	1	15		5	1	1					25		
7級	5	1			1			6	2	3	1	14		3	1	1				1	25		
6級	17	8			1			33	7	3	8	60		8	4	4	5				98		
5級	5	2			1			26	4		5	35		2	3	3	4				54		
4級	5	2	1	1				5	2		3	13		3					1	2	24		
3級	5	2						2	2	2	1	5		1					1		9		
2級	1							1	1	1	2	10				1					16		
技能2級	1							1	1	1	2	5									6		
小計	4							5	2	2	1	11		1					1		13		
	1							3	1	1	1	6		6							4		
	1							3	1	1	1	6		3							16		
	1							1			1	1		3							5		
計	50	69	73	59	56	59	7	70	20	16	24	453	30	87	51	72	62	17	4	826			
	11	7	10	3	6	5	1	35	8	1	6	82	6	12	14	17	11	8	1	162			

(平成20年5月1日現在)

(単位:人)

	理事 長室・ 本部	東京農業大学											短 期 大 学 部	東 京 情 報 大 学	第 一 京 高 農 等 業 大 学	第 二 京 高 農 等 業 大 学	第 三 京 高 農 等 業 大 学	第 一 高 等 学 校 中 等 部	成 人 農 業 大 学	合 計		
		農 学 部	応 用 生 物 科 学 部	地 域 環 境 科 学 部	国 際 食 料 情 報 学 部	生 物 産 業 学 部	教 職 ・ 学 術 情 報 課 程	セ ン タ ー タ ク ソ ウ サ ー ビ ス	セ ン タ ー タ ク ソ ウ サ ー ビ ス	サ ー ビ ス セ ン タ ー 学 生	オ ー プ ン サ ー ビ ス セ ン タ ー	(左記所 属者除 く)									計	
特任教授・ 嘱託教授・ 嘱託職員・ 助手・ 副手・ 事務嘱託 用務嘱託	特任教授	1		1		3						5		4							9	
	嘱託教授・准教授・講師・助手	12	13	1	12	12	4					54	12	9								75
	助 手		6	1	1							8										8
	副 手	3	5			1						9										9
	嘱託教諭															7	4	7	3			21
	事務嘱託	5	1		1	2		3	2	3	3	15		1				1			1	23
	用務嘱託	3	3		1					2		6			4	2	3	3	1			16
	計	5	20	24	4	14	18	4	3	2	5	3	97	12	14	11	6	11	4	1		161
	3	7	11	1	2	3			2	3	32	4	1	3	2	5	1				51	
非常勤講師				425							425	37	87	30	47	35	13	64			674	
				85							85	9	16	17	24	16	9	24			176	
合計	55			832				73	22	21	27	975	79	188	92	125	108	34	5		1,661	
	14			141				35	10	4	9	199	19	29	34	43	32	18	1		389	

(注1) 表中「\*」印は教授が、「\*\*」印は教諭が兼務していることを示し、集計からは除外している。

(注2) 各欄の上段は合計数を示し、下段は女性の数を内数で示している。

(注3) 成人学校の非常勤講師[網掛け箇所]の人数は、集計から除外している。

### Ⅲ 事業の概要

平成20年度に実施した主な事業は、次のとおりです。

#### 1 教育研究改革の推進

##### <文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業 - 平成20年度採択 - >

##### ■「革新的ゲノム情報解析を用いた生物資源ゲノム解析と農学新領域の創出」／東京農業大学

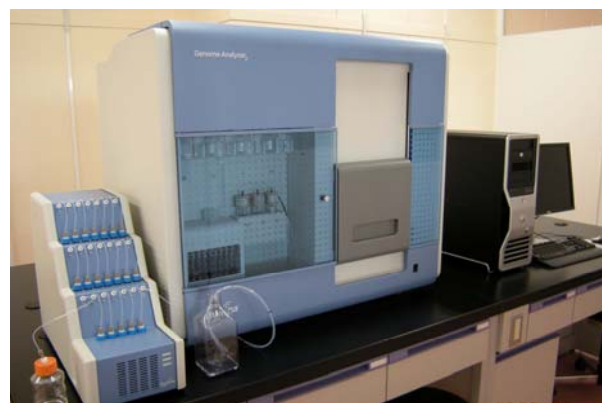
バイオサイエンス学科 教授 大澤 貫寿（研究代表者 東京農業大学 学長）

バイオサイエンス学科 教授 河野 友宏（総合研究所 所長）

バイオサイエンス学科 教授 吉川 博文（生物資源ゲノム解析センター 管理運営委員長）

革新的なゲノム解析装置の登場により、短時間で膨大なゲノム解析が可能になった。この超ハイスループットな技術により、全ゲノムスケールで塩基配列および遺伝子修飾の決定、全遺伝子発現の定量、さらに特定環境中に存在する微生物群の全遺伝子の解析（メタゲノム解析）等が可能になり、基礎から応用までパラダイム転換が行われると考えられる。この画期的な基盤技術を元に、動植物、微生物などすべての生物を研究対象とする農学分野において、ゲノム情報の解析、生物機能の解析および新機能を有する生物の育種、そして実用化へのトランスレーショナルリサーチも含め研究を展開する。ゲノム解析の結果得られる膨大な配列情報を処理する情報科学の基盤を築くと同時に、さまざまな生物種の遺伝子情報を集積し、実用化レベルにまで到達させるための各生物種に応じた発現・解析システムを開発し、農学各分野に特化したシステムバイオロジーを構築することによって新しい農学領域を創出し、研究・教育に資することを目的とする。

本学の動植物、昆虫、微生物、海洋生物を扱う先進的研究の推進者を中心に構成する。これらの研究者はオホーツクキャンパスの生物産業学部、厚木キャンパスの農学部、世田谷キャンパスの応用生物科学部、地域環境科学部、国際食料情報学部にまたがって所属しており、本研究の拠点となるゲノム解析センターは全学的組織として世田谷キャンパスに配置された。センターはプロジェクトリーダー以下、下記研究グループのリーダーと専任スタッフにより推進している（計44名うち女性7名）。研究グループは、（1）動物（昆虫を含む）、（2）植物、（3）微生物、（4）複合領域ならびに（5）情報解析の5グループから構成され、有機的に連携しながら推進している。また、各キャンパスより試料や学生を含む人員を受け入れ、研究・教育が行われている。なお、センターの運用には、高度な解析技術、情報処理技術を持つスタッフを常置して推進すると共に、学内外の利用者への支援体制の構築が進められている。



Genome Analyzer & Paired End Module

発足記念キックオフシンポジウム 告知ポスター

■ 「アジア東岸域の環境圏とそれに依存する経済・社会圏の持続的発展のための研究拠点形成」

／東京情報大学

東京情報大学 学長 新沼勝利 (研究代表者)

総合情報学研究科 教授 浅沼 市男 (総括、研究グループリーダー)

総合情報学研究科 教授 原 慶太郎 (研究グループリーダー)

総合情報学研究科 教授 武井 敦夫 (研究グループリーダー)

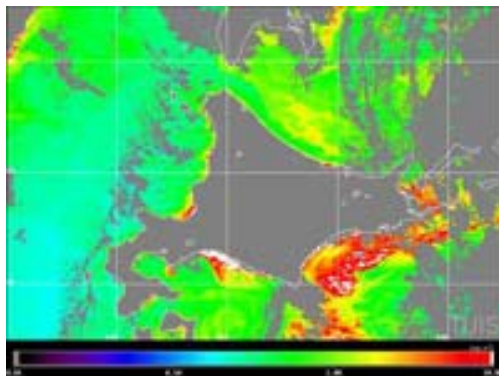
総合情報学研究科 教授 山崎 和子 (研究グループリーダー)

本研究は、衛星データを利用した東アジア地域の環境モニタリングと、同地域の経済活動の適応過程を評価し、環境圏と経済・社会圏とのネットワーク解析から、持続的発展のための社会システムの在り方を提唱するものです。これは、ネットワーク解析から見出される東アジア地域のペースメーカーへ対応する社会システムであり、日本にとっての環境の安全、経済・社会圏の安全を確保する提言となることが期待されます。

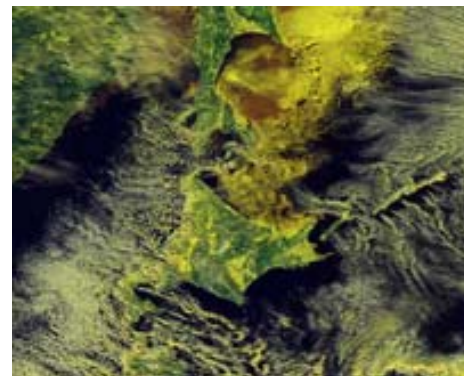
進歩の著しい Web と地理情報システム (GIS) 技術を活用し、陸圏及び水圏の観測情報、経済・社会圏の情報を定常的に発信します。また、自動的に検出される大規模な環境変動現象については、Web と地理情報システム空間において分かり易い情報の可視化を図り、最先端技術を活用した情報基盤を形成していきます。

具体的には、現在、本学で運用中の MODIS-NPP 対応型の衛星データ受信システムに加え、2008 年度に東京農業大学オホーツクキャンパス(網走市)と、2009 年度に東京農業大学宮古島亜熱帯農場(宮古島市)に、新たに同型の衛星データ受信システムを設置し、南シナ海東部からベーリング海西部までの海域を含む東アジア地域の衛星による観測体制を整備します。同時に、東アジア地域の研究者間のネットワークを活用し、同地域の環境変動を研究するとともに、経済活動の適応過程を研究し、環境圏と経済・社会圏とのネットワーク解析を進めていきます。

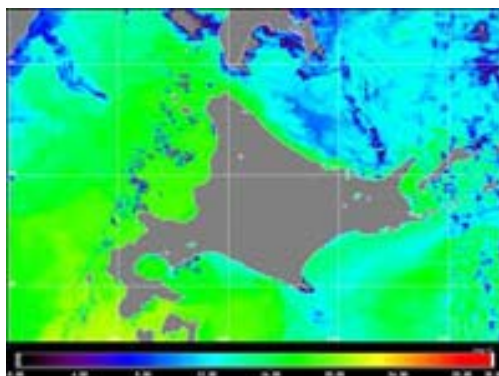
研究期間は、平成 20 年度から平成 24 年度までの 5 カ年計画。



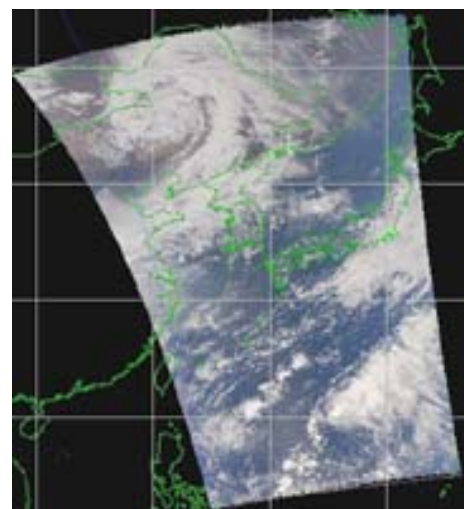
植物プランクトンの分布 (北海道沿岸域)



流水分布図 (海域の黄色部分が流水)



海表面温度 (北海道沿岸域)



リアルタイム画像

<バイオマスエネルギー>

■バイオエタノール製造システムの研究／東京農業大学

醸造科学科 教授 鈴木 昌治

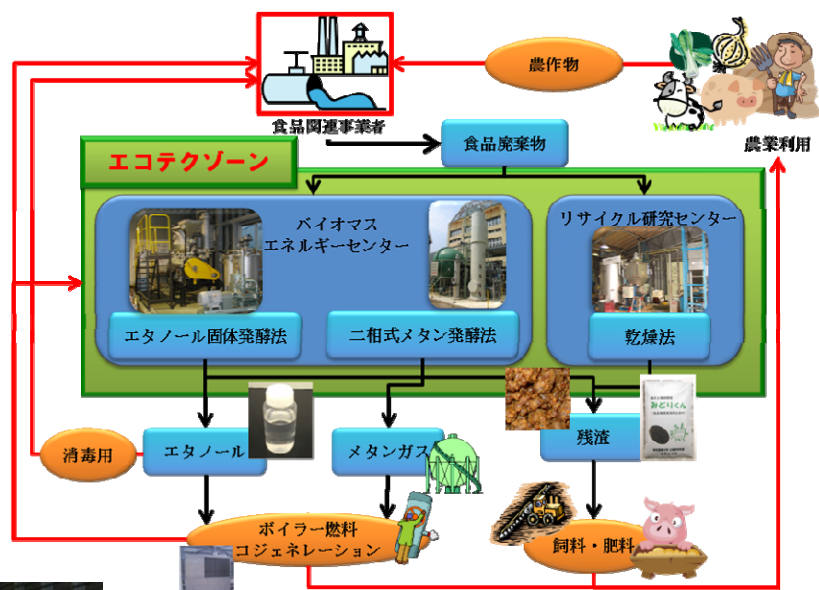
醸造科学科 助手 本多 宏明

本システムは、醸造科学科鈴木昌治教授と醸造学専攻本多宏明氏（現在本学の助手）により発明された他に類を見ない世界初のバイオエタノール製造法である。鈴木教授指導のもと研究が進められ 2003 年学校法人東京農業大学から特許出願し、平成 20 年 12 月に特許を取得した（登録番号：特許第 4237684 号、発明の名称：エタノールの製造方法およびエタノール製造システム）。

本特許は、従来のエタノール製造時に排出される蒸留廃液を抑制することに最大の特徴があり、本学世田谷キャンパス・バイオマスエネルギーセンター内に設置されたエタノール固体発酵装置で研究と実証が重ねられてきた。現在、本システムにより愛知県の飼料メーカーではポテトチップ残さ、岩手県奥州市では余剰農産物を原料にバイオエタノールを製造し実用化に向けた共同研究が進められている。

特許取得により、農大発の環境を配慮した地産地消型の新規バイオエタノール製造システムの普及が期待されている。（総合研究所）

東京農業大学が考える、循環型農業システム エコテクゾーンプロジェクト



食品廃棄物を利活用した循環型農業システム  
エコテクゾーンプロジェクト



バイオマスエネルギーセンター内の  
エタノール固体発酵装置



## <先端研究の推進>

### ■東京農業大学先端研究プロジェクト／総合研究所

東京農業大学は、農林水産分野とその関連分野における先端的研究を対象に、独自の「公募プログラム」を準備しています。学内の選考を経て、国内外に高く評価される、新たな「知の創造」を目指します。農林水産分野及びその関連分野における新技術・新分野を創出するための独創的かつ先端的な研究で、東京農業大学の先端研究基盤の向上に資することを目的とします。自然科学分野においては、生命現象の解明、農林水産物の高付加価値化、生産性の飛躍的向上、生命応用科学への展開等の研究、環境・社会科学分野においては、地球規模の食料・環境問題の解決、生態系・資源循環システムの構築等が挙げられます。なお、本研究の成果や取組については、COEへの挑戦など世界的な研究拠点形成を目指すものであることが望まれます。

#### 【平成20年度 進行中のプログラム】

- ◇ 生命科学分野  
「遺伝子発現機構に基づく新たな家畜改良に関する研究」 平成18年度から3年間  
畜産学科 教授 半澤 恵 (研究代表者)
  
- ◇ 植物分野  
「生物的・非生物的ストレス耐性植物の作出」 平成19年度から3年間  
生物応用科学科 准教授 樋口 恭子 (研究代表者)
  
- ◇ ケミカルバイオロジー分野  
「食材に含有される生体調節機能物質 (food factor) のケミカルバイオロジー解析」  
栄養科学科 教授 阿部 尚樹 (研究代表者) 平成20年度から3年間

<文部科学省大学改革推進事業 - 平成20年度採択 - >

■質の高い大学教育推進プログラム「地域再生・活性化の担い手育成教育」／東京農業大学

東京農業大学 学長 大澤 貫寿（事業推進代表者）  
食料環境経済学科 教授 立岩 壽一（事業推進責任者）

**1 東京農大の建学精神・教育理念とプロジェクト**

東京農業大学では、創設以来「人物を育てる」「食料・環境」をキーワードとして、多岐にわたる課題を解決する。21世紀の人類社会の課題たる「食料」「環境」「健康」「エネルギー」等の問題解決に向けた人材を全学的に育成し、広く社会に貢献しています。

食料環境経済学科は、「食料・環境問題の解決能力を有した人材の育成」や「地域社会の担い手育成」という教育目標に従い人材を育成しています。前身の農業経済学科以来、多数の卒業生が農業及び食料関係、公務員等をはじめとして多方面で活躍しています。学科は「食料」「環境と資源」「地域経済と農村」「農業」という分野にわたる21の研究室で学生教育を行い、「食・農・環境」に関する問題を社会的に分析し、その解決能力を教育しています。

**2 プロジェクトの必要性**

「食料・環境」問題の解決能力のある人材の育成  
●「食・農・環境」問題の解決能力のある人材の育成  
●地域再生・活性化能力のある人材育成

**3 プロジェクトの必要性**

大学社会  
=「人物を育てる」(実学主義)の実現  
=食料自給率の向上・耕作放棄地の解消  
=環境対策・地域活性化  
学生  
=授業や研究、社会への関心、将来や職業への目標意識の向上  
=コミュニケーション能力の向上(自主学習・世代間)  
=社会生活におけるルール意識の向上  
地域  
=地域社会の活性化(伝統文化・産業・発展力)  
=地域資源の活用

**4 取り組みの背景、社会的ニーズ**

日本の農業・農村では高齢化・過疎化や農地の荒廃等が進行しています。地方農産物の高齢化率は全国平均で25.2%に達し、耕作放棄率は全国平均で10.1%と中山間地域を中心に増大しつつあります。このような地域では労働力不足や高齢化により、食料生産だけでなく環境保全や伝統文化維持も困難になり、国土保全や水資源確保等が著しく低下したのに対し、食料自給率は40%（数値では27%）と低く、昨今の国際的食料価格の高騰もあって国の輸入に頼った食料確保体制の改善が課題となっています。

この様な状況下、大学教育の中でこれらの問題を適切に分析でき、解決に向けた取組能力を有した学生を育成することは、農学が本学である本学及び食料環境経済の活用促進を有する学生を育てる本学の社会的責任でもあると考えられています。

**5 プロジェクトの特徴と教育課題への対応**

「地域再生・活性化の担い手育成教育」学生教育

**特徴**

社会的課題解決教育  
学生主体型教育  
地域再生・活性化の担い手育成  
自己実現教育  
地域との協働による教育

最近の日本農業や地域農業・経済が抱えている課題に鑑み、教育目標である「食・農・環境」に関する課題の解決に向けた現状分析と問題解決手法の習得、「地域社会の担い手」育成等を実現するため、本プロジェクトは、「社会的課題解決教育」「地域との協働による教育」「学生主体型の教育」「自己実現の教育」という4つの教育目標を設定しています。こうした教育を通して、実習地域においては、大きく以下の問題解決を目指します。

**地域活性化**  
耕作放棄地・遊休農地を活用し、特産品である和紙の原料(楮・トコロシ)を生産し、さらに和紙作りを行うことで、伝統文化の維持を目指します。

**環境保護**  
耕作放棄地・遊休農地を活用して、自給率の高い作物(大豆・ソバ等)を生産し、地域特産物の原料として活用し、(地産地消)に取り組みすることで、自給率向上を目指します。

**環境保護**  
森林資源を国土保全資源の維持管理により、地域の自給率の向上を目指します。

**教育課題への対応**

社会貢献・実学主義  
学生主体  
探究・実習・交流・体験  
地域社会との連携  
社会的ニーズへの対応  
国際・社会・産業・環境・文化等への対応  
学生主体  
探究・実習・交流・体験  
地域社会との連携  
社会的ニーズへの対応  
国際・社会・産業・環境・文化等への対応

**地域再生・活性化人材育成教育**

●地域社会との連携教育による社会人としての意識と人間関係形成の教育  
●社会的ニーズに対応できる能力育成、社会貢献意識の醸成  
●就職後の対応力養成

**ひろく社会で活躍できる能力と知識を持った人材の育成**

最近の日本農業や地域農業・経済が抱えている課題に鑑み、教育目標である「食料」、「環境」に関する課題の解決に向けた現状分析と問題解決手法の習得、「地域再生・活性化の担い手」育成等を実現するため、本プロジェクトは、第1に中山間地域の耕作放棄地や遊休農地を活用して特産品である和紙原料を生産し、伝統文化の維持をはかり、それらを通じて日本社会の奥深さとサステナビリティ（安定性）等を学生に理解させ、社会貢献の意識を醸成する。第2に耕作放棄地や遊休農地を活用して自給率の低い作物を生産しそれを「地産地消」に供し自給率向上に努める。第3に森林資源の維持により地域社会の全体的環境保全をはかり、学生の環境保護に対する具体的取組を教育する。第4にかかると取組全体を通して学生の自己実現を実感させ、多様な自己表現のできる学生を育成する。第5にこの教育を通して地域再生、地域活性化に活躍できる人材の育成をはかる。

これらの取組に学生が参画し、実行するという総合的な教育を行うことで、能力開発をはかる。学生は、第1に、地域と食料問題、環境問題、地域再生・活性化等に関する現状分析の手法を学習でき、第2に、それらの課題・問題の解決方法を学習できる。第3に、耕作放棄地の活用や伝統文化の維持のための教育から地域社会の総合的プランナーとしての手法を学習できる。このような学習の成果として「地域社会の分析能力」、「地域活性化の企画能力」、「地域活性化の実施能力」、「食料資源の活用能力」、「環境保護の担い手能力」、「グリーンツーリズムインストラクション能力」、「都市と農村の交流の担い手能力」等の能力を涵養できる。これらは、食料自給率向上や自然環境保全、地域再生・活性化等という全国的な課題の解決に必要となる重要な能力であり、その育成は本学の理念とカリキュラムの特徴の反映としてとらえられる。

■質の高い大学教育推進プログラム「学生と教員の協働による学科横断的実学教育」／東京農業大学短期大学部

東京農業大学短期大学部 学長 大澤 貫寿（事業推進代表者）  
東京農業大学短期大学部 部長 藤垣 順三（事業推進責任者）

この教育 GP プログラムは、学生自身が自分の将来を見据えて主体的に実習に取り組み、自分のキャリアデザインを構築できるようにさせるための取り組みである。そのために教員が学生一人一人の希望を聞き、それを具体化するために新たな実習先の開拓にも努め、今まで以上に現場にも足を運んで受け入れ側の方々と積極的に交流を図り、共に指導する態勢をとってきた。その結果、学生の実習に対する意欲が高まり、自分の将来像を見詰め直す機会にもなり、教育効果は著しく上がった。また、4 学科の教員の教育に対する意識の高まりと学科間の協力関係が強まったことにより、新たな教育 GP への取り組みにも発展させることができた。

折りしも本学では、中教審の答申を受け社会的ニーズに対応できる学生教育のために、カリキュラムの大幅な改訂作業を始めた。この過程において、入学してくる学生についていろいろな側面から分析した結果、多様な入試制度により入学する学生の学力較差は以前にもまして大きくなっており、また勉学や将来の進路に対する目的意識が希薄な者や他人と接することが苦手な学生なども多くなっていることが明らかになった。このような多様な新入生を本学で教育するには、教育カリキュラムも個別対応ができるような多様性を有するものが望ましいと考えられる。

そこで従来までの教育カリキュラムを全面的に見直し、総合教育科目の拡大を図ると共にリメディアル教育の実施、初年次教育の強化、学科横断的な専門教育科目の実施およびキャリア教育を充実させるため、専門教育科目のスリム化も検討した。これらにより、高校教育から大学教育へスムーズに移行させると共に、学科横断的な専門教育科目と初年次教育とを合わせて履修させるという新たな教育プログラムを立案し、学生 1 人 1 人に自分の学ぶ専門分野の位置付けを明確にさせ、学ぶ動機を強固にさせることを意図した。その実施に当たっては、個々の学生が自身の希望する進路についてクラス担任と十分に話し合うことで、それぞれの進路に対応した専門科目の選定やその履修モデルを構築し学習する。

さらに、4 学科横断的な専門教育科目の実施に当たっては、学生が教員と一緒にやる（協働）により、学生の教員に対する距離感を縮め、本学の教育への移行を一層スムーズにさせると共に、自ら学ぶ喜びや学ぶことの大切さを体感させる。これらの経験が、学生一人一人にその後履修する学科の専門教育科目や研究室活動に積極的に取り組み発展させることができる原動力となるであろうと期待される。2 年間のこれら一連の教育活動により、学生自身に将来の進路を見据えた目標を持って勉学に取り組む姿勢を身に付けさせ、急速に変化する現代社会に適応可能な教養と専門知識を兼ね備えた専門職社会人を育成する、という本学の教育目的を達成させようとするものである。

## <文部科学省補助対象事業 — 継続事業 —>

- 大学改革推進事業を実施しました。（事業推進代表者・東京農業大学 学長 大澤 貫寿）
  - ◇ 東京農業大学／平成17年度採択 現代的教育ニーズ取組支援プログラム「地域連携によるオホーツク学の展開」 生物産業学部 部長 横濱 道成（事業推進責任者）
  - ◇ 東京農業大学／平成18年度採択 現代的教育ニーズ取組支援プログラム「多摩川源流域における地域再生と農環境教育」 森林総合科学科 教授 宮林 茂幸（事業推進責任者）
  - ◇ 東京農業大学短期大学部／平成18年度採択 特色ある大学教育支援プログラム「学生主導型体験実習が拓くキャリアデザイン」 東京農業大学短期大学部 部長 藤垣 順三（事業推進責任者）
  - ◇ 東京農業大学／平成19年度採択 現代的教育ニーズ取組支援プログラム「エゾシカから学ぶ環境共生と地域産業の連携」 生物生産学科 学科長 増子 孝義（事業推進責任者）
- 学術フロンティア推進事業を実施しました。
  - ◇ 東京農業大学／平成10年度採択事業、平成16年度継続採択「新農法確立のための生物農薬など新素材開発」 農学研究科国際バイオビジネス学専攻 教授 藤本 彰三（研究代表者）
- 社会連携研究推進事業を実施しました。
  - ◇ 東京農業大学／平成17年度採択「バイオマス資源の多段階エネルギー化システムの開発による環境共生社会の創造」 地域環境科学部 教授 牧 恒男（研究代表者）

## <文部科学省補助対象事業 — 平成20年度 施設設備等整備事業 —>

- 教育研究装置施設整備事業に採択され、同事業を実施しました。
  - ◇ 東京農業大学／「生物資源ゲノム解析センター（改造工事）」
  - ◇ 東京農業大学／「超高速シーケンス解析装置」
  - ◇ 東京農業大学／「質量分析計」
  - ◇ 東京農業大学／「7号館エレベータ改修工事」
  - ◇ 東京農業大学／「13号館エレベータ改修工事」
  - ◇ 東京情報大学／「4号館出入口自動扉設置工事」
  - ◇ 東京情報大学／「東京情報大学学内LAN」
- 研究設備等整備事業に採択され、同事業を実施しました。
  - ◇ 東京農業大学／「バイオイメージング観察システム」
  - ◇ 東京農業大学／「レーザー3Dスキャナー一式」
  - ◇ 東京農業大学／「局所解析総合システム」
  - ◇ 東京情報大学／「MODIS・NPP衛星データ受信設備」

## <高大連携事業>

大学の果たす使命のひとつとして高大連携を軸にして地域貢献に取り組んでいます。

東京農業大学生物産業学部では、3つの自治体・7高等学校と連携協定を結び、東京情報大学では千葉県立高校6校と連携事業を展開しています。なお本事業は平成20年度独立行政法人科学技術振興機構サイエンス・パートナーシップ・プログラム事業に採択されました。

- ◇ 東京農業大学／「氷海生態系～その意外な実態を氷の上から観察しませんか」  
生物産業学部 スプリングサイエンスキャンプ2008 2008年3月20-22日
- ◇ 東京情報大学／「未来をつくる『情報』を学ぶ」  
前期（90分）10コマ実施

＜国際連携の推進－海外姉妹校締結・世界学生サミット／国際協力センター－＞

東京農業大学は、海外の大学等教育研究機関との交流ならびに協力活動を通じて、本学教職員および学生の資質向上に資するとともに国際的社会貢献を推進することを目的として国際協力センターを設置しています。

わが国を代表する農学系の総合大学として、世界の平和と人類の繁栄に資するため、食料・環境・健康・バイオマスエネルギーの分野での諸問題の解決に向けた国際的な教育研究・協力活動を実施しています。海外提携大学・研究機関との連携によって実学的な国際教育プログラムや国際研究協力を企画運営し、教育研究水準の高度化を図るとともに、蓄積された経験と教育研究成果の社会還元のためにさまざまな国際開発協力プロジェクトを実施しています。

海外の大学と姉妹校の締結を行い、長期派遣留学、アメリカ農業実習、海外短期研修、語学留学、サマープログラムなどを実施しています。また、世界の食料・環境問題を考え、人類の持続的発展と青年自らの役割について話し合うために、創立110周年を記念して、海外姉妹校、外国人留学生および日本人学生が一同に会して、世界の食料・環境問題を考え人類の持続的発展と青年自らの役割について協議する場として世界学生サミットを開催しています。第8回目となる平成20年度は「新世紀の食と農を考えるをテーマとし、18カ国・地域の学生らの白熱した議論の結果、次世代への持続的農業の推進を求める共同宣言をまとめました。

海外姉妹校（19校）

- アメリカ・ミシガン州立大学(1966年締結)
- タイ・カセサート大学(1988年締結)
- 中国・中国農業大学(1988年締結)
- カナダ・ブリティッシュコロンビア大学(1988年締結)
- 台湾・国立中興大学(1992年締結)
- インドネシア・ボゴール農科大学(1996年締結)
- モンゴル・モンゴル国立農業大学(1996年締結)
- ペルー・ラモリーナ国立農業大学(1996年締結)
- フィリピン・フィリピン大学ロスバニオス校(1996年締結)
- 韓国・国立慶北大学(1998年締結)
- イスラエル・ヘブライ大学(1998年締結)
- ベトナム・ハノイ農業大学(1998年締結)
- ブラジル・サンパウロ大学(2001年締結)
- メキシコ・チャピング自治大学(2001年締結)
- ウクライナ・ウクライナ国立農業大学(2003年締結)
- マレーシア・マレーシアプトラ大学(2004年締結)
- フランス・農業グランゼコール・コンソーシアム(4大学連合)(2004年締結)
- オランダ・ワーヘニンゲン大学(2004年締結)
- フランス・ボーベラサールポリテクニク学院(2007年締結)



## 2 教育研究施設設備整備事業

### ■東京農業大学・同短期大学部世田谷キャンパス環境整備

- ◇ 常磐松学生会館建設
- ◇ 短期大学部醸造学科研究実験棟建設
- ◇ 森林総合科学科木工室・演習室・倉庫設置（移設）
- ◇ 生産環境工学科実験圃場設置（移設）
- ◇ 住之江記念館等既存建物の解体、給排水・下水管敷設替等整備
- ◇ 新校舎建設
- ◇ 高次生命機能解析センター（動物実験施設）設置（15号館1階改修）
- ◇ 戦略的研究基盤形成支援事業
  - ・生物資源ゲノム解析センター設置（12号館6階）
  - ・研究設備備品取得
- ◇ 7・13号館エレベータ改修（身障者対応）
- ◇ 常磐松道場外壁改修



常磐松学生会館

### ■東京農業大学厚木キャンパス環境整備

- ◇ 土地・建物取得（恵泉女子学園園芸短期大学伊勢原キャンパス跡地）

### ■東京農業大学オホーツクキャンパス環境整備

- ◇ 経年劣化年次補修等（第一食堂・図書館棟外壁）
- ◇ 野球場防球ネット設置（第2研究棟窓破損対策）

### ■東京情報大学環境整備

- ◇ 情報教育システム更新
- ◇ 2号館（食堂棟）バリアフリー改修（身障者対応）
- ◇ 戦略的研究基盤形成支援事業
  - ・東アジア環境・経済研究棟建設（設計管理）
  - ・研究設備備品取得



短期大学部醸造学科実験棟

### ■東京農業大学第二高等学校環境整備

- ◇ 体育館耐震補強設計

### ■東京農業大学第三高等学校環境整備

- ◇ 校舎外壁改修

### ■東京農業大学第三高等学校附属中学校設置

- ◇ 中学校校舎建設（設計・外溝含む）
- ◇ 校内マルチメディア設備設置
- ◇ 設備備品・図書購入
- ◇ 既設校舎図書室拡張
- ◇ 部室棟建設



東京農業大学第三高等学校附属中学校

### 3 参考資料

#### (1) 平成21年度入学試験(大学)データ(一般入試・大学入試センター利用入試)

##### ①東京農業大学

(単位:人)

学部	学科	一般入試			大学入試センター利用入試		
		志願者	受験者	合格者	志願者	受験者	合格者
農学部	農学科	2,118	2,048	601	1,272	1,262	468
	畜産学科	699	671	293	567	563	290
	バイオセラピー学科	964	930	440	661	660	259
	学部計	3,781	3,649	1,334	2,500	2,485	1,017
応用生物科学部	バイオサイエンス学科	1,771	1,663	378	1,198	1,182	303
	生物応用化学科	1,737	1,675	351	1,318	1,307	317
	醸造科学科	1,377	1,337	218	846	840	153
	栄養科学科食品栄養学専攻	625	591	97	395	390	84
	栄養科学科管理栄養士専攻	819	773	96	449	448	60
	学部計	6,329	6,039	1,140	4,206	4,167	917
地域環境科学部	森林総合科学科	764	736	301	542	522	259
	生産環境工学科	803	782	318	559	558	291
	造園科学科	539	518	251	338	331	94
	学部計	2,106	2,036	870	1,439	1,411	644
国際食料情報学部	国際農業開発学科	750	735	257	499	489	159
	食料環境経済学科	802	767	212	623	619	162
	国際バイオビジネス学科	593	564	255	488	485	113
	学部計	2,145	2,066	724	1,610	1,593	434
生物産業学部	生物生産学科	269	255	201	214	212	170
	アクアバイオ学科	187	182	161	175	174	132
	食品科学科	181	172	147	147	146	138
	産業経営学科	69	66	58	64	63	59
	学部計	706	675	567	600	595	499
大学計		15,067	14,465	4,635	10,355	10,251	3,511

##### ②東京情報大学

(単位:人)

学部	学科	一般入試			大学入試センター利用入試		
		志願者	受験者	合格者	志願者	受験者	合格者
総合情報学部	情報システム学科	114	108	44	123	122	121
	環境情報学科	64	61	35	49	48	39
	情報ビジネス学科	45	42	25	46	45	41
	情報文化学科	60	57	38	62	61	56
	学部計	283	268	142	280	276	257
大学計		283	268	142	280	276	257

##### ③東京農業大学短期大学部

(単位:人)

学科	一般入試			大学入試センター利用入試		
	志願者	受験者	合格者	志願者	受験者	合格者
生物生産技術学科	195	189	128	115	115	73
環境緑地学科	129	125	91	98	98	36
醸造学科	202	200	90	151	149	43
栄養学科	271	247	111	225	223	33
大学計	797	761	420	589	585	185

(2) 平成21年3月卒業生進路状況(大学別学部別) (平成21年5月1日現在)

① 東京農業大学

学部	卒業生数	就職者数											(単位:人、%)					
		上段:人数(人) 下段:割合(%)	農業・鉱業	建設業・不動産業	食品製造業	製造業	サービス業	卸売業	小売業	金融・保険	運輸	教育	公務員	その他	就職以外	自営	進学	その他
農学部	490	339 100	17 5.0		62 18.3	22 6.5	71 20.9	35 10.3	51 15.0	6 1.8	3 0.9	27 8.0	18 5.3	27 8.0	151	29	54	68
応用生物科学部	690	503 100	5 1.0	4 0.8	161 32.0	55 10.9	95 18.9	63 12.5	33 6.6	7 1.4	4 0.8	22 4.4	9 1.8	45 8.9	187	22	125	40
地域環境科学部	543	427 100	9 2.1	85 19.9	10 2.3	48 11.2	114 26.7	21 4.9	43 10.1	6 1.4	4 0.9	13 3.0	43 10.1	31 7.4	116	24	47	45
国際食料情報学部	665	522 100	20 3.8	11 2.1	49 9.4	43 8.2	136 26.1	55 10.5	71 13.6	32 6.1	23 4.4	19 3.6	14 2.7	49 9.5	143	24	47	72
生物産業学部	376	288 100	12 4.2	6 2.1	67 23.3	26 9.0	42 14.6	24 8.3	61 21.2	5 1.7	8 2.8	9 3.1	5 1.7	23 8.0	88	18	26	44
大学計	2,764	2,079 100	63 3.0	106 5.1	349 16.8	194 9.3	458 22.0	198 9.5	259 12.5	56 2.7	42 2.0	90 4.3	89 4.3	175 8.5	685	117	299	269

② 東京情報大学

学部	卒業生数	就職者数											(単位:人、%)				
		上段:人数(人) 下段:割合(%)	農業・鉱業	建設業・不動産業	製造業	サービス業	卸売業	小売業	金融・保険	運輸	教育	通信	公務員	就職以外	自営	進学	その他
総合情報学部	556	405 100	2 0.5	19 4.7	20 4.9	236 58.3	37 9.1	50 12.3	15 3.7	12 3.0	7 1.7	1 0.3	6 1.5	151	9	25	117

③ 東京農業大学短期大学部

学部	卒業生数	就職者数											(単位:人、%)					
		上段:人数(人) 下段:割合(%)	農業・鉱業	建設業・不動産業	食品製造業	製造業	サービス業	卸売業	小売業	金融・保険	運輸	教育	公務員	その他	就職以外	自営	進学	その他
短期大学部	479	154 100	15 9.7	8 5.2	23 14.9	5 3.2	33 21.4	9 5.8	21 13.6	2 1.4	1 0.7	12 7.8		25 16.3	325	20	221	84



## IV 財務の概要

平成20年度決算について、その概要を報告します。

### 1 資金収支計算書

「資金収支計算書」は、学校法人の当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入・支出の内容を明らかにし、支払資金（現金及びいつでも引き出すことができる預貯金をいいます。）の収入・支出の顛末を明らかにするものです。

平成20年度の資金収支決算は、次表のとおりです。

資金収支総括表

(単位:百万円)

科目	年度	平成20年度		
		予算(1)	決算(2)	増減(1)-(2)
資金収入	経常収入	26,740	27,110	△ 370
	各種特定資産の取崩	2,184	2,327	△ 143
	前受金・預り金収入等	5,793	6,645	△ 852
	前年度繰越支払資金	14,786	14,786	0
	収入の部合計(A)	49,503	50,868	△ 1,365
資金支出	経常支出	21,513	20,424	1,089
	借入元利金支出	774	774	0
	施設・設備関係支出	3,948	3,733	215
	各種特定資産の積立	3,485	3,610	△ 125
	預り金支出等	5,660	5,453	207
	支出の部合計(B)	35,380	33,994	1,386
次年度繰越支払資金(A)-(B)		14,123	16,874	△ 2,751

(注) 経常収入: 学生生徒等納付金収入・手数料収入・寄付金収入・補助金収入・資産運用収入・事業収入・雑収入。  
経常支出: 人件費支出・教育研究経費支出・管理経費支出。

平成20年度の資金収入総額は、50,868百万円で予算対比1,365百万円の収入増となりました。この増加の内訳は、経常収入370百万円増、各種特定資産の取崩143百万円増、前受金・預り金収入等852百万円増です。

資金支出総額は、33,994百万円で予算対比1,386百万円の支出減となりました。この減少の内訳は、経常支出1,089百万円減、施設・設備関係支出215百万円減などです。

以上の結果、平成21年度へ繰越す次年度繰越支払資金（翌年度へ繰越す現金・預貯金）は、16,874百万円で、予算対比2,751百万円の増加となりました。

## 2 消費収支計算書

「消費収支計算書」は、学校法人の当該会計年度の消費収入・消費支出の内容を明らかにするものです。

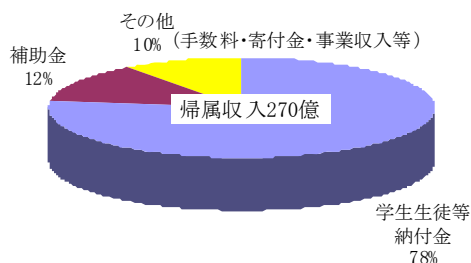
平成20年度の消費収支決算は、次表のとおりです。

消費収支総括表

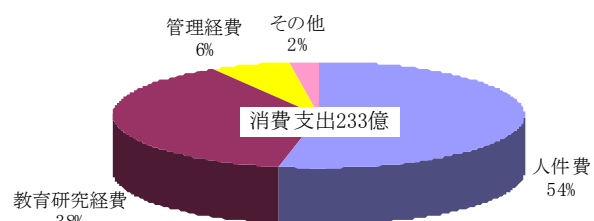
(単位:百万円)

科目	年度	平成20年度		
		予算(1)	決算(2)	差異(1)-(2)
消費収入	学生生徒等納付金	20,808	20,790	18
	補助金	3,444	3,361	83
	その他	2,306	2,806	△ 500
	帰属収入合計(A)	26,558	26,957	△ 399
	基本金組入額合計	△ 3,665	△ 2,255	△ 1,410
	消費収入の部合計(B)	22,893	24,702	△ 1,809
消費支出	人件費	12,381	12,344	37
	教育研究経費	9,759	8,928	831
	管理経費	1,701	1,459	242
	その他	450	527	△ 77
	消費支出の部合計(C)	24,291	23,258	1,033
当年度帰属収支差額(A)-(C)		2,267	3,699	△ 1,432
当年度消費収支差額(B)-(C)		△ 1,398	1,444	△ 2,842
前年度繰越消費収入超過額		13,249	13,249	0
基本金取崩額		1	34	△ 33
翌年度繰越消費収入超過額		11,852	14,727	△ 2,875

帰属収入の構成比率



消費支出の構成比率



平成20年度の帰属収入合計(学生生徒等納付金、寄付金、補助金等の学校法人に帰属する収入)は、26,957百万円で予算対比399百万円の収入増です。予算対比で収入増となった科目は、手数料94百万円、寄付金112百万円、資産運用収入184百万円、雑収入157百万円などです。

また、収入減となった科目は学生生徒等納付金18百万円、補助金83百万円、事業収入47百万円などです。

基本金組入額合計（主に固定資産の新規取得分の組入れ）は、2,255百万円で予算対比1,410百万円の組入減です。

帰属収入合計から基本金組入額合計を控除した消費収入の部合計は、24,702百万円で、予算対比1,809百万円の増加です。

消費支出の部合計（教職員の人件費、教育研究活動及び法人運営に必要な諸経費）は、23,258百万円で、予算対比1,033百万円の支出減です。予算対比で支出減となった科目は、人件費37百万円、教育研究経費831百万円、管理経費242百万円などです。また、支出増となった科目は、資産処分差額246百万円です。

以上の結果、消費収入から消費支出を差し引いた当年度の消費収支差額（基本金取崩後）は、予算では1,397百万円の支出超過を見込んでいましたが、決算は1,478百万円の収入超過となりました。

なお、翌年度へ繰り越す消費収入超過額は、前年度から繰越した収入超過額13,249百万円に当年度の収入超過額1,444百万円及び基本金取崩額34百万円を加算した14,727百万円となります。

### 3 貸借対照表

平成20年度末の貸借対照表は、次表のとおりです。

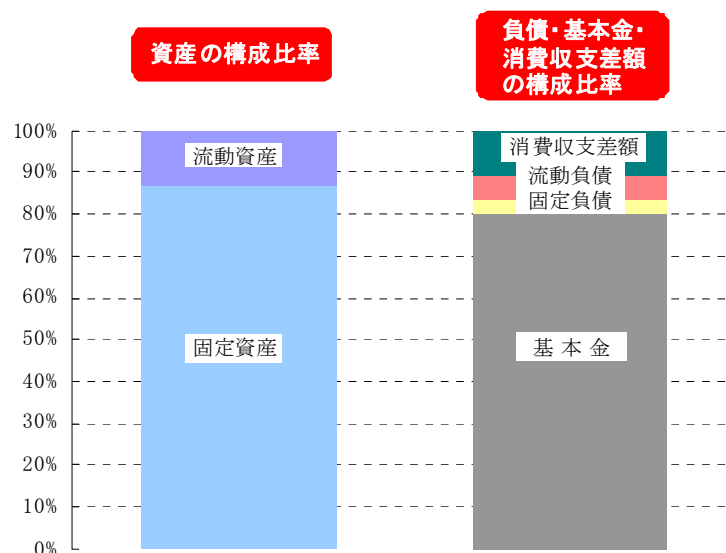
#### 貸借対照表

資産の部 (単位:百万円)

科目		平成20年度末(1)	平成19年度末(2)	増減(1)－(2)
資産の部	固定資産	116,325	113,958	2,367
	流動資産	17,595	15,742	1,853
合計		133,920	129,700	4,220

#### 負債の部・基本金の部・消費収支差額の部

科目		平成20年度末(1)	平成19年度末(2)	増減(1)－(2)
負債の部	固定負債	4,275	4,324	△ 49
	流動負債	7,407	6,836	571
	計	11,682	11,160	522
基本金の部		107,511	105,291	2,220
消費収支差額の部		14,727	13,249	1,478
合計		133,920	129,700	4,220



平成20年度末の固定資産は、東京農業大学のキャンパス環境整備、東京農業大学第三高等学校附属中学校の校舎新築、将来の教育研究環境の充実を目的とした特定資産（減価償却引当特定資産、機器更新等引当特定資産）への積立等により、前年度対比2,367百万円の増加となりました。また、流動資産も現金・預金を中心に前年度対比1,853百万円の増加となりました。

一方の負債総額については、東京農業大学における借入金の返済と退職給与引当金の減少等により、前年度対比522百万円の減少となりました。

なお、基本金は固定資産の取得により、消費収支差額は収支の改善により、前年度対比でそれぞれ増加となりました。

#### 4 資金収支計算書・消費収支計算書・貸借対照表の経年比較

資金収支計算書・消費収支計算書・貸借対照表の経年比較は、次表のとおりです。

##### (1) 資金収支計算書の経年比較

(単位:百万円)

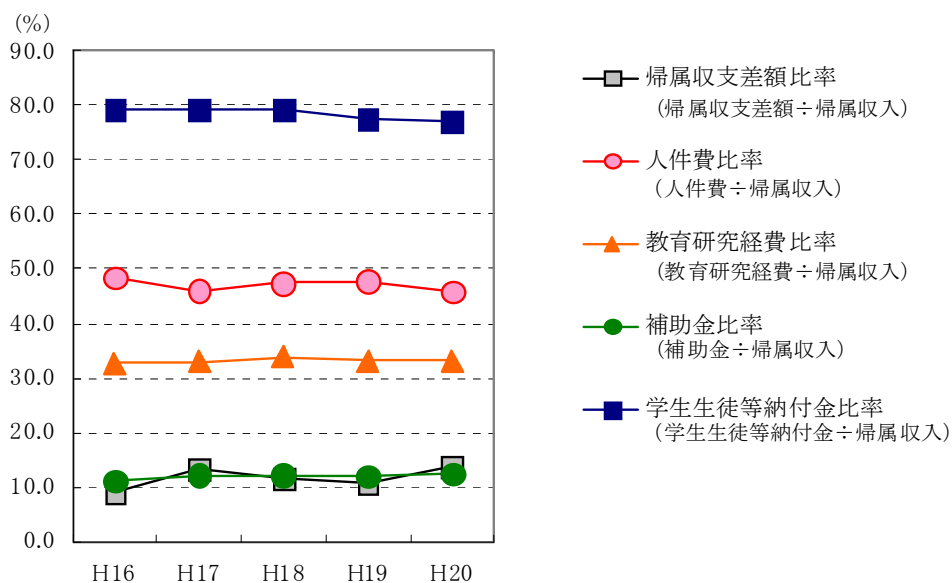
科目		16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
収入の部	学生生徒等納付金収入	20,383	20,344	20,408	20,657	20,790
	手数料収入	851	1,019	883	792	880
	寄付金収入	182	230	156	277	377
	補助金収入	2,892	3,112	3,115	3,207	3,361
	資産運用収入	94	77	175	352	414
	資産売却収入	4	55	106	6	206
	事業収入	564	435	445	414	396
	雑収入	755	478	532	687	686
	借入金等収入	0	0	0	0	700
	前受金収入	5,140	5,314	5,380	5,118	5,653
	その他の収入	6,669	8,182	7,728	7,976	8,335
	資金収入調整勘定	△ 5,771	△ 5,635	△ 5,791	△ 6,010	△ 5,716
	前年度繰越支払資金	16,414	13,752	12,327	13,834	14,786
	合計	48,177	47,363	45,464	47,310	50,868
支出の部	人件費支出	12,397	11,945	12,368	12,739	12,466
	教育研究経費支出	6,405	6,425	6,555	6,623	6,758
	管理経費支出	1,440	1,361	1,208	1,244	1,200
	借入金等利息支出	67	60	54	48	41
	借入金等返済支出	194	161	161	161	733
	施設関係支出	1,584	3,220	1,925	1,787	2,657
	設備関係支出	894	979	959	687	1,076
	資産運用支出	6,355	5,966	3,496	3,903	3,818
	その他の支出	5,308	5,144	5,221	5,517	5,444
	資金支出調整勘定	△ 219	△ 225	△ 317	△ 185	△ 199
	次年度繰越支払資金	13,752	12,327	13,834	14,786	16,874
	合計	48,177	47,363	45,464	47,310	50,868

(2) 消費収支計算書の経年比較

(単位:百万円)

科目	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
消費収入の部					
学生生徒等納付金	20,383	20,344	20,408	20,657	20,790
手数料	851	1,019	883	792	880
寄付金	224	270	186	538	412
補助金	2,892	3,112	3,115	3,207	3,361
資産運用収入	94	77	175	352	414
資産売却差額	0	0	1	0	1
事業収入	564	435	445	414	396
雑収入	757	480	541	689	703
帰属収入合計	25,765	25,737	25,754	26,649	26,957
基本金組入額合計	△ 3,377	△ 4,149	△ 1,692	△ 936	△ 2,255
消費収入の部合計	22,388	21,588	24,062	25,713	24,702
消費支出の部					
人件費	12,480	11,825	12,202	12,740	12,344
教育研究経費	8,449	8,496	8,693	8,827	8,928
管理経費	1,682	1,605	1,460	1,495	1,459
借入金利息	67	60	54	47	41
資産処分差額	720	339	336	714	482
徴収不能額	0	0	0	1	4
消費支出の部合計	23,398	22,325	22,745	23,824	23,258
当年度帰属収支差額	2,367	3,412	3,009	2,825	3,699
当年度消費収支差額	△ 1,010	△ 737	1,317	1,889	1,444
前年度繰越消費収支差額	11,681	10,671	9,970	11,307	13,249
基本金取崩額		36	20	54	34
翌年度繰越消費収支差額	10,671	9,970	11,307	13,249	14,727

消費収支関係比率の推移



(3) 貸借対照表の経年比較

資産の部 (単位:百万円)

科目		16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
資産の部	固定資産	106,481	111,532	113,007	113,958	116,325
	流動資産	14,587	12,998	14,444	15,742	17,595
合計		121,068	124,530	127,451	129,700	133,920

負債の部・基本金の部・消費収支差額の部

科目		16年度	17年度	18年度	19年度	20年度
負債の部	固定負債	5,094	4,812	4,484	4,324	4,275
	流動負債	6,681	7,011	7,252	6,836	7,407
	計	11,775	11,823	11,736	11,160	11,682
基本金の部		98,622	102,737	104,408	105,291	107,511
消費収支差額の部		10,671	9,970	11,307	13,249	14,727
合計		121,068	124,530	127,451	129,700	133,920

貸借対照表の推移

